

一般質問を通じた議員力・議会力の向上について (その3)

2020/08/18

議会改革推進会議 正副委員長

先回の委員会を受けて、冊子『たかが一般質問、されど一般質問』を編集されたときの議会改革推進会議委員長である原副議長と懇談した。懇談の内容をまとめるとともに、今後の委員会の取り組みについて考えていきたい。

1 当時の取り組みの経緯の話から

- ア 一般質問は、議員に与えられた権利であるが、義務ではない。やってみたところ、もう少しこうしたらよかったと反省したり、よりよいものにしたいという欲求が生じてくる。そして、「一般質問は、議員にとって何だろうか」というテーマに突き当たってくる。それを整理し、まとめたものが冊子というカタチになった。
- イ 「一般質問は、議員にとって何だろうか」というテーマに向き合っていくこと、そして、それを共有することから学びが生まれてくる、それを進めてきたということ。一般質問を、どのように考えていけばいいか、冊子をどう活用したらよいかと大上段に構えず、まずは気づきを大事にしていくこと。
- ウ ひとりの一般質問を、みんなの一般質問にするシクミづくりやテクニカルなことを考える以前に、そういった組立てにしていける課題・テーマがあるかが先だろう。そのような課題を見つける力を上げていくことが重要であり、その力が上がれば、課題も多く見つかってくる。それらをどう捌いていけるかが、議会力につながってくるのではないかと。

2 委員会としての取り組みについてのアドバイス

- ア アクションを起こしていくうえで、議会改革推進会議のなかで留めてしまわず、議会改革推進会議がリードして取り組むことが良いと考える。しかし、2～3期、それ以上のベテラン議員からすると、いまさら感や恥ずかしいと思ったりする。まずは、1～2期の議員を中心に取り組むというのはいかがでしょうか。
- イ 議員は、もっとよい一般質問をしたいと思ったり、踏み込みが足りないと感じているはず。1～2期の議員の取り組みが波及し、みんなが勉強し、取り組んでいくことで、飯田市議会の一般質問のレベルが上がってくるのではないかと。
- ウ 例えば、社会文教委員会で取り組んでいる土山先生の「課題共有型円卓会議」を、一般質問をテーマとして、土山先生を講師にやってみるというのも一案。
- エ 広報広聴委員会がタウンミーティングをテーマとして行ったディスカッション形式も一案。
- オ 冊子の読み返しを自力でしていくことは、少々刺激が弱い。
- カ 議会改革は内向きに見えるが、本質は外向き、つまり執行機関側へ向けて制度改革・政策につなげていくことが重要。

3 今後の進め方について

- ア スケジュール感として、10月に勉強会、12月一般質問、すぐに検証して、1～2月にまとめていく。
- イ 上記2のアドバイスについて、委員会内で意見交換していく。特に、土山先生を講師に依頼する場合、謝金が必要となる。当初予算が無いため、やり繰りできるか事務局へお願いしたい。